

プレスリリース
PRESS RELEASE
2014/9/1

アーツ前橋
ARTS MAEBASHI

アーツ前橋企画展

服の記憶 — 私の服は誰のもの？

2014年10月10日（金） — 2015年1月13日（火）



西尾美也《ことばのかたち工房〔関口農園〕》 2008年



コンセプト

私の服は誰のもの？

あなたがいま着ている服は、どのようにして選びましたか。現代社会に生きる人はみな、ファッションに関心があってもなくても、若くても齢をとっても、お金があってもなくても、服を身につけて生活しています。オシャレだから、流行しているから、自分に似合うと思ったから、動きやすいから、制服だからなど、選んだ理由はさまざまで、学校や会社など属する社会によっても着る服は変わります。

本展覧会では、デザイナーやファッション産業が作り出す流行や消費という枠組みから離れて、「着ること」をもっと個人や他者との関係の中に置き、衣服のもつさまざまな役割を考えることを提案します。

1枚の衣服は、誰かの手によって時間をかけて生み出され、着用されることで個人の成長や変化、衰えていく身体感覚を確かめるものになります。そして、たとえ毎日違うコーディネートができるほど服を持っていたとしても、「着たい」と思われなくなった服は、クローゼットやタンスの奥で、いつ着られるかわからない出番を待ちます。脱ぎ捨てられた後は、自分とは異なる誰かの記憶や想いを伝える役割も果たします。つまり衣服が媒体となって、個人や家族、社会との関係性を築きます。また、デザイナーが創造した服をそのまま身につけるのではなく、自らの創意工夫によって着こなし、受容していくことも、服を着ることの魅力といえます。服を着ることは毎日の行為だからこそ、見つめ直すきっかけになることを本展では目指します。

開催概要

展覧会名：服の記憶 ― 私の服は誰のもの？

会 期：2014 年 10 月 10 日（金）から 2015 年 1 月 13 日（火）

会 場：アーツ前橋 群馬県前橋市千代田町 5-1-16

開館時間：11 時から 19 時まで（入館は閉館の 30 分前まで）

休 館 日：水曜日、年末年始（12 月 28 日～1 月 4 日）

観 覧 料：大人 600 円（400 円） 学生・65 歳以上 400 円 高校生以下無料

*（ ）内は 10 名以上の団体料金

*10 月 28 日（火）は群馬県民の日のため無料

*11 月 29 日（土）は「いい（11）ふく（29）」の日のため無料

*本展会期中割引、以下の条件でご来館の方は、入館料が 400 円となります

①ドレスコード割：手作りの服飾品を身につけてきた方

②トワイライト割：開館中の 17 時以降に入館された方

主 催：アーツ前橋

助 成：一般財団法人地域創造、平成 26 年度 文化庁 地域発・文化芸術創造発信イ
ニシアチブ

後 援：朝日新聞前橋総局、共同通信社前橋支局、産経新聞前橋支局、時事通信社前
橋支局、上毛新聞社、東京新聞前橋支局、日本経済新聞社前橋支局、毎日新
聞前橋支局、読売新聞前橋支局、NHK 前橋放送局、群馬テレビ、エフエム群
馬、まえばし CITY エフエム

参加ブランド、作家名：

青木正一 AOKI Shoichi

新井淳一 ARAI Junichi

アンリアレイジ ANREALAGE

石内都 ISHIUCHI Miyako

シアタープロダクツ THEATRE PRODUCTS

ストア STORE

ニゴー NIGO®

平野薫 HIRANO Kaoru

フォームオンワーズ FORM ON WORDS

本展のみどころ

●「糸と布」 新井淳一／平野薫／STORE

衣服をかたち作る要素となる糸と布。誰かの手仕事によって紡ぎ、織られ、裁断され、縫われて一着の服になります。平野薫は時間をかけて作られた服を、さらに時間をかけて糸の状態にまで解き、その糸を元の配列のまま別の形へ結びあげていきます。それは糸の記憶を遡りながら、さらに新たな命を与えるかのようです。



* 平野薫

1975 年長崎県生まれ、ベルリン在住。2003 年広島市立大学大学院芸術学研究科博士後期課程総合造形芸術専攻修了。主な個展に「エアロゾル」（2007 年、資生堂ギャラリー）、「Re-Dress」（2012 年、SCAI THE BATHHOUSE）。主なグループ展に「布をめぐる旅」（2008 年、高松市歴史資料館）、「OFF SITE 2007 平野薫／sullen」（2008 年、横浜美術館）、「DOMANI・明日展」（2013 年、国立新美術館）など。かつて誰かが身につけていた衣服を糸の状態までほどき、再び紡ぐように再構成するインスタレーションを発表している。現在はドイツを拠点に活動を行っている。

平野薫《untitled-jacket-》 2008 年 作家蔵 photo by Katsuhiro SAIKI



* STORE（ストア）

1998 年結成。國時誠（群馬県高崎市生まれ）と國時里織（東京都生まれ）が主宰するファッションブランド。「シンプルな一点もの」がブランドの特徴で、代表的なアイテム「ボーダーシリーズ」は全ての商品を1点1点手作業で配色するなど、ベーシックなデザインでありながら同じ物は二つとない一点ものを作り続けている。2006 年よりトランクーつで服を売り歩く「服の行商」をスタート。人と場があればどこでも服を販売し、国内は北海道から九州まで、海外は、ロンドン、サンフランシスコ、シンガポール、バンコクと、個人宅、小料理屋の座敷、デザイン事務所、美術館などあらゆる場所で行なっている。

STORE《タイルチェックシリーズ》 2014 年～ ハトバカルチュラルメゾンフォーアーツ株式会社蔵

●「衣服の記憶」 石内都／NIGO®／染織資料

絹や木綿、麻、羊毛など自然から生み出される衣服は、合理的でかつ魅力ある色や形をもちます。アイヌでは鮭の革で靴が作られたり、綿布が貴重だった東北では、麻の衣類に木綿の糸で刺し子をすることで、保温や補強をしながら大切に使っていたといわれます。これらはひと針ひと針、家族のためを思って作られました。作り手や着せ手の想いが込められる一方で、誰かに着られた服は、脱ぎ捨てられた後、自分とは異なる誰かの記憶や想いを伝える媒体の役割を果たします。石内都は、残された遺品に“今”という新しい光りを当てます。NIGO®は、「未来は過去にある」というコンセプトのもと、自身がコレクションするヴィンテージジーンズやスカジャンとともに、細部を再現しながらも現代風に甦らせた服を紹介します。



* 石内都

1947 年群馬県桐生市生まれ。初期三部作で街の匂い、気配、空気をとらえ、同じ年生まれ女性の手と足の作品「1・9・4・7」以降、身体にのこる傷跡シリーズを展開。1979 年第 4 回木村伊兵衛写真賞。2005 年「Mother's 2000-2005 未来の刻印」でヴェネチア・ビエンナーレ日本代表。2008 年広島市現代美術館で個展「ひろしま」を開催、写真集出版。2009 年第 50 回毎日芸術賞。2012 年丸亀市猪熊弦一郎現代美術館にて個展「絹の夢」。2013 年ロンドン・テートモダンにて収蔵展。『Frida by Ishiuchi』をメキシコ・RM より出版。2014 年ハッセルブラッド国際写真賞を受賞。

石内都《絹の夢#6 桐生 2011》2014 年 タイプC プリント 作家蔵



* NIGO® (クリエイティブ・ディレクター)

1970 年群馬県前橋市生まれ。1993 年に立ち上げた「A BATHING APE®」を売却後、現在は自身のブランド「HUMAN MADE」のディレクションのほか、「UNIQLO」のTシャツブランド「UT」や「adidas Originals」のクリエイティブ・ディレクターを兼任。その動向は世界中から常に注目を集めている。

NIGO®

●「自分らしさの神話」

青木正一／アンリアレイジ／シアタープロダクツ／フォームオンワーズ

身分階級や性差などからの解放を衣服は担い、自分らしさへと向かいます。自己表現は衣服を着る根源的な理由の一つですが、人はどのように服を選択し、何を服に求めているのでしょうか。原宿でストリートファッションを撮影し続けている青木正一の視点から、自分らしさとは何かを提示し、2015 春夏よりパリコレクションに進出するアンリアレイジは、アイデンティティという束縛から離れ、服のもつ可能性を提示するような新作を発表します。シアタープロダクツは、着用者と服作りのプロセスを共有するプロジェクトを行い、着用者自身が改変を加えられるなど服に主体的に関わる方法を提案。フォームオンワーズは、個人に取材を重ねて、「あなたのための服」をつくります。鑑賞者は、自分とは異なるパーソナリティのために作られた服を着ることへの違和感あるいは共感、そしてそれを脱いで自分の服を着たときの感覚などを体験し、服と自分の関わりを考えるきっかけとなるでしょう。

* 青木正一

1955 年東京生まれ。プログラマーを経て独立後、1985 年にロンドン、パリなど海外のストリートファッションを紹介する『STREET』を発行。ファッションスナップの先駆けとなる。1996 年原宿ストリートにいるリアルな被写体を収めた『FRUITS』を発行し世界から注目を集める。その後、FRUITS のメンズ版『TUNE』を発行し、2012 年にモードなギャルを被写体にした『RUBY』を発行。国内外のギャラリーや美術館で写真展を行う。レンズ株式会社代表。

* アンリアレイジ／ANREALAGE

デザイナー森永邦彦（1980 年、東京都生まれ）。2003 年に ANREALAGE を設立。「A REAL-日常」、「UN REAL-非日常」、「AGE-時代」という言葉を組み合わせた造語で、「日常の中であって、非現実的な日常のふとした振れに眼を向け、見逃してしまいそうな些事からデザインの起点を抄いとる」という服作りを展開。2005 年、ニューヨークの新人デザイナーコンテスト「GEN ART 2005」でアバンギャルド大賞を受賞。2011 年、第 29 回毎日ファッション大賞新人賞・資生堂奨励賞受賞。2012 年、個展「アンリアレイジ展 A REAL UNREAL AGE」（パルコミュージアム・東京）を開催。2013 年、「フィロソフィカル・ファッション 2：A COLOR UN COLOR」（金沢 21 世紀美術館・石川）を開催。2015 年春夏よりパリコレクションに進出。

* シアタープロダクツ（THEATRE PRODUCTS）

2001 年にデザイナーの武内昭（1976 年生まれ）と中西妙佳（1977 年生まれ）、プロデューサーの金森香（1974 年生まれ）が創設したブランド。2013 年に中西が退任し、新たなデザイナーに藤原美和（1979 生まれ）が就任。「洋服があれば世界は劇場になる」をテーマに、ブランディングショーや店舗ディスプレイなどのプレゼンテーションを劇場仕立てに演出して独自の世界観を構築している。近年のプロジェクト「THEATRE, yours」では、生地や型紙の選定、縫製方法など、服作りのプロセスを消費者と共有する仕組みを実験的に提案している。

●アーツ前橋ユニフォーム

本展参加ブランドの FORM ON WORDS が、前橋市民からエピソードと共に寄せられた古着の色や形、思い出などを素材に、子どもから大人までのさまざまな市民と関わり合いながら、アーツ前橋のスタッフユニフォームを完成させます。アーティストやデザイナーの存在感だけでなく、着る人であるスタッフの想いを乗せ、関わった人々にとって親しみのあるユニフォームになります。



*FORM ON WORDS（フォームオンワーズ）

西尾美也（1982 年生まれ）のアートプロジェクト「ことばのかたち工房」（練馬区立東大泉児童館、2008-11）の活動を経て、2011 年に西尾美也、竹内大悟（1977 年生まれ）、臼井隆志（1987 年生まれ）、濱祐斗（1987 年生まれ）を中心に発足したファッションブランド。アートやファッション、ワークショップ、グラフィックデザインなど多様な専門領域を持つメンバーが集い、個人や地域コミュニティを対象に服とのさまざまな接し方（作り方、着方、遊び方など）を提案している。アーツ前橋では、2013 年 10 月から、地域アートプロジェクト・きぬプロジェクト「ファッションの時間」として作品展示やワークショップ、集められた古着を本のように貸し出す「ファッションの図書館」を開催してきた。



FORM ON WORDS ワークショップの様子

関連イベント

◎トークプログラム

参加アーティストやデザイナーが、自身と衣服との関係性について語ります。

・石内都（写真家） 2015年1月10日（土）14時～16時（13時30分開場）

会場：シネマまえばし シアターゼロ （アーツ前橋と同じ建物の3階）

参加費無料

定員 100名

申込方法：事前申込制

住所、氏名、年齢、電話番号、メールアドレス、年齢を明記の上、電話またはメールにてお申込みください。

◎FORM ON WORDS ファッションショー

FORM ON WORDS（フォームオンワーズ）の新作コレクションを体験しながら、ファッションショーに参加してみましょう。

2014年11月8日（土）、9日（日） 13:00ー／15:00ー／17:00ー

参加無料（要観覧券）

* 詳細は、ホームページにて随時お知らせいたします。

プレスプレビュー

2014年10月9日（木）

12時開場／19時閉場

13時30分～14時30分 プレス向け作品解説会

* 一部の参加作家・ブランドが立ち合います。

参加作家への個別取材を希望する場合は、あらかじめご連絡ください。作家およびブランドへの確認を致します。都合により調整がつかない場合は、ご了承ください。

図版



1



2



3



4



5

展覧会カタログ

今回の展覧会を伝えるための図録を出版します。

『服の記憶 — 私の服は誰のもの?』

B5 判 160 ページ 店頭販売 2200 円 11 月上旬、BNN 新社より全国発売予定

記事掲載についてのお願い

- ・掲載にあたっては、正式展覧会名称と会期を表記してください。
- ・写真を掲載する場合は、写真に添付してあるキャプション・クレジット等を正確に表記してください。
- ・掲載記事やVTRは、資料として保管いたしますのでアーツ前橋までご送付ください。
- ・取材及び収録等の取材は、必ず事前にお問い合わせください。

お問い合わせ先

アーツ前橋

前橋市役所文化スポーツ観光部文化国際課 担当 山田（広報担当）、辻（学芸担当）

〒371 - 0022 群馬県前橋市千代田町 5-1-16

TEL : 027-230-1144 FAX : 027-232-2016 [http : //www.artsmaebashi. jp](http://www.artsmaebashi.jp)

E-MAIL : artsmaebashi@city.maebashi.gunma.jp

交通案内

●公共機関

JR 前橋駅から徒歩約 10 分

上毛電鉄 中央前橋駅から徒歩約 5 分

●自動車

関越自動車道 前橋 I.C から車で

約 15 分



アーツ前橋企画展「服の記憶 ― 私の服は誰のもの？」 広報用画像申込書

アーツ前橋 広報担当 宛 FAX 027-232-2016

ご希望の画像の番号に○をつけてください。画像（JPEG）をメールにてお送りいたします。

* 本展覧会の広報を目的とする場合に限り、ご提供致します。個人のブログへの掲載や鑑賞等を目的とする場合にはご提供できません。

* 掲載にあたっては、写真に添付してあるキャプション・クレジット等を正確に表記してください。

番号	画像キャプション
1	平野薫《untitled-jacket-》2008 年 作家蔵 photo by Katsuhiro SAIKI
2	STORE《タイルチェックシリーズ》2014 年～ ハトバカルチュラルメゾンフォーアーツ株式会社蔵
3	石内都《絹の夢#6 桐生 2011》2014 年 タイプC プリント 作家蔵
4	西尾美也《ことばのかたち工房 [関口農園]》2008 年
5	THEATRE PRODUCTS 《THEATRE, yours 00 ワークショップ》 2013 年 photo by Mai Narita

◎読者プレゼント用招待券（5 組 10 名様） ☐ 希望します ☐ 希望しません

媒体情報 * できるだけ詳しくご記入ください

掲載誌：	
発行日：	発行元：
貴社名：	
部署名：	担当者名：
所在地：	
TEL：	FAX：
E-MAIL：	